

連携室だより 第1号

島根県歯科医師会 在宅歯科医療連携室

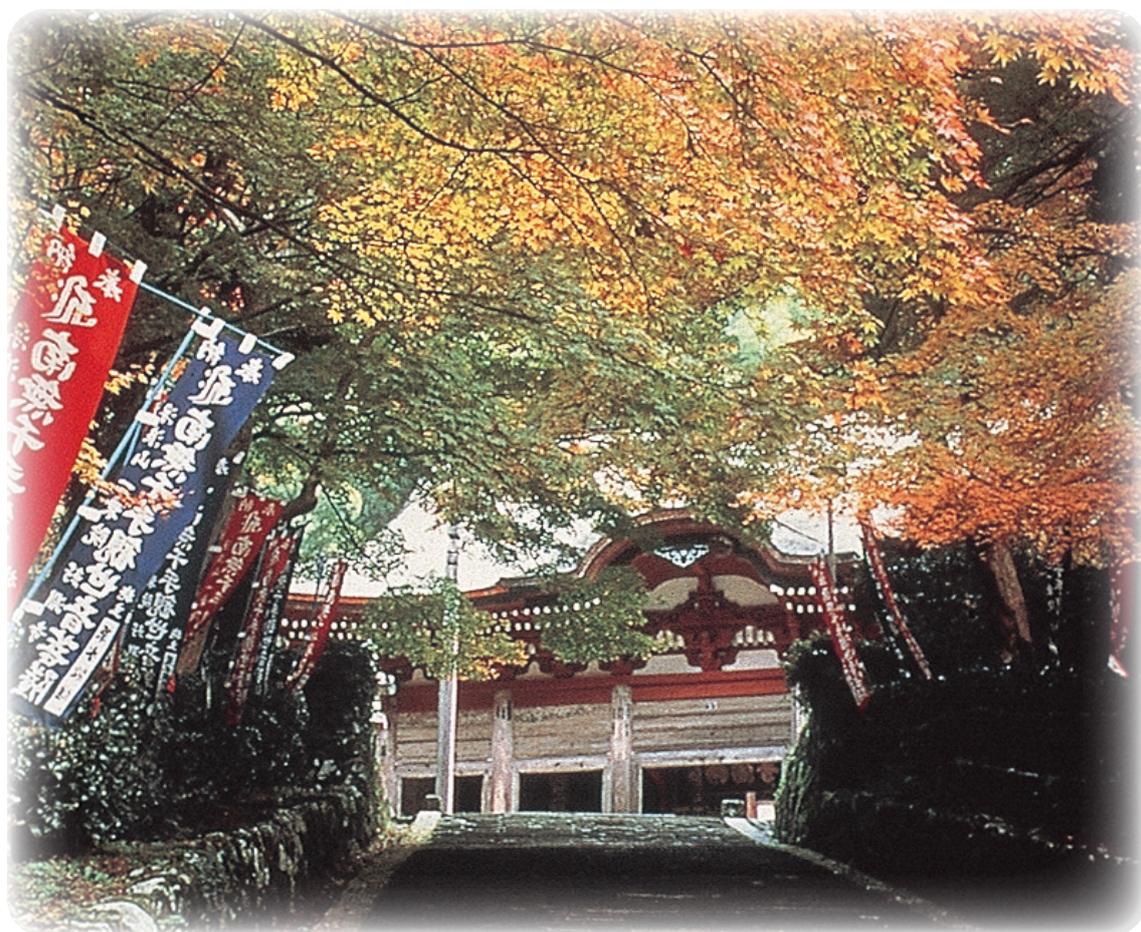
島根県歯科医師会は昨年、在宅歯科医療連携室を設置しました。
連携室の目的は、在宅や施設・病院で介護を受けていて通院できない方が歯科医療を必要とされた時に、電話で相談を受け往診で対応できる歯科医師を紹介し派遣するものです。「歯科の往診ほっとライン」は歯科の往診専用でどなたでも利用することができます。

歯科の往診ほっとライン（島根県歯科医師会事務局内）

☎0852-27-8020

平日 9:00~17:00

*土日・祝日・年始年末は対応しておりませんのでご了承ください



出雲市 鱒淵寺の紅葉

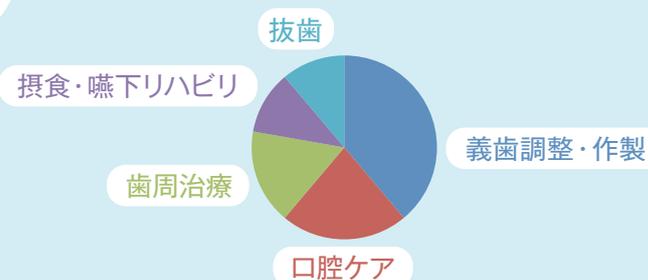
連携室の利用状況

連携室が設置されて1年になりますが、現在までの「歯科の往診ほっとライン」の利用数は11件と少ない状況です。

相談内容



診療内容



「歯科の往診ほっとライン」をもっと気軽に利用していただくため、平成25年9月12日に島根県高齢者福祉課、島根県介護支援専門員協会、訪問看護ステーション、島根県歯科衛生士会の各代表の方に出席していただき、第1回在宅歯科医療連携室運営委員会を開きました。その際、

- * 連携室の趣旨、利用の仕方が分からない。
- * 歯科の往診がどの程度の診療内容に対応しているのか分からない。
- * 口腔ケアの相談だけで往診を依頼してもいいのか。
- * 摂食・嚥下に関して診てもらえるのか。
- * ケアマネジャーなど介護支援者は決まった依頼先（歯科医師）を持っている。などの意見が出されました。

「歯科の往診ほっとライン」は、歯や口の困りごとの相談に対してワンストップで対応していくものです。歯科医院に通院できない方の困りごとに対して、ご相談いただいた内容に対応できる歯科医師を連携室で決定します。相談先を知らない方や、できるだけ早く往診してほしいなどのご要望にお応えします。

連携室の利用が望ましい往診の事例を次に報告します。

ケース ①

病院看護師さんから、入院中の患者さんの歯の痛みを診てほしいという依頼です。心臓病と認知症で入院している女性ですが、自宅は病院から車で40分ほど離れた隣の市です。

認知症もあり自分で口腔清掃ができません。20本ある歯は歯周病が進み、痛みや歯肉の腫れも見られました。ぐらぐらの歯は抜歯し、残りの歯は病院の介護士さんに口腔ケアを協力してもらい毎月1回往診することにしました。初めはできなかつたうがいも介護士さんの見守りでぶくぶくは不十分なが可能になり、口腔ケアも拒否が少なくなりました。

ひき続き口腔管理が必要ですが、入所する施設が決まったら今の病院は退院しなければなりません。施設はどこになるかまだ分かりませんが、遠方になった場合は近隣の歯科医師に往診を依頼する必要があります。



息子：「母のために口のリハビリや口腔ケアを続けた方がいいと思うけど、退院後どこに行くかまだ決まらないし、どうしたらいいですかね・・・」

歯が残っている状態で要介護になると、口腔管理が難しくなります。

むし歯や歯周病が進行すると痛みや食欲不振など食べることが不自由になり、食事の介助も難しくなります。

歯科衛生士は患者さんの状況に合った口腔ケアを診断し、患者さん自身や介助する方が効率的にケアできる方法をアドバイスできます。

早い段階から継続的に口腔管理を始めて、場合によっては抜歯や義歯の調整を行いながら、できるだけ食べるのに困らない状態を維持していくことが大切です。

高齢者は病院や施設など地域も環境も異なる場所に移動することも多く、かかりつけ歯科医師が口腔管理できないケースが増えています。このようなケースも連携室を利用していただくことで各地域の歯科医師による継続的な管理が可能になります。

ケース ②

訪問STさんから在宅ケアの会で顔見知りになった歯科医師へ、在宅で寝たきりの方の義歯が合っていないが調整できるか診てほしいという依頼です。

この男性は脳梗塞後遺症、失語症があり、症候性てんかんの発作を抑えるため抗てんかん薬を増量服用していて、往診時に全く覚醒できないこともありました。歯科医師の医院から患者宅までは片道25分の距離で、意思の疎通もできず、覚醒が不十分な中での診療と車の往復で2時間弱かかることもありました。

義歯は古く、調整しても合わないと診断し、新しい義歯を作りましたがスケジュールが入れづらく、完成し調整まで数カ月かかりました。

妻：「以前は入れ歯が落ちるので私が時々手で押さえながら食べさせていました。往診で作っていただけてほんとはよかったです。遠いところをいつもすみません。」



歯科医師：「何とか作ることができて喜んでもらえてよかったが、往診の依頼の多い中1回2時間のスケジュールを組むのはやはり大変。STさんから距離的に往診が難しいようなら近くで往診してくれる先生を紹介してほしいと言われてたけど、近くで気軽に頼める先生を知らないし・・・」

患者さんやご家族にとって、家から近く、口の中の不具合があった時にできるだけ早く来てくれる歯科医師が望まれます。車を運転して遠方のかかりつけ歯科へ通っていた方が介護状態になることもあり、かかりつけ歯科医師が往診を行っていてもスケジュールによっては不具合をしばらく我慢しなければなりません。連携室ではこのような場合も、近隣でできるだけ早く対応できる歯科医師を派遣することができます。

歯科の往診は介護を受けている方の口の困りごとが起こってから相談される場合がほとんどですが、歯や義歯の状態は通院から遠ざかっている期間が長いほど悪くなっており、治療がより困難になります。介護が必要になったらできるだけ早い段階で、継続的な歯科診療を受けることをおすすめします。